



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島教区 電話099(26)5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行 教区広報部

道標



教区評議会開催やレオ七右衛門殉教碑除幕式など

今年の主な教区行事決まる



司祭評議会(郡山健次郎会長)は一月二十二日(火)教区本部で総会を開き、二〇〇八年に行われる三つの主な教区行事について検討した。それによると教区評議会(十月、一八八殉教者列福式(十一月)、レオ税所七右衛門殉教碑叙幕式(十一月)を主な行事として行うことを決めた。

十一月二十四日(月)に長崎市で開催される「二八八殉教者列福式」への参加については、多様な

教皇に教区の様子を報告

郡山司教が使徒座訪問で

昨年十二月十日(月)から十五日(土)まで、日本司教団の使徒座訪問が行われた。使徒座訪問とは、教区司教が五年に一度、担当する教区の状態について教皇に報告書の提出を行い、聖ペトロと聖パウロの墓を巡礼し教皇に謁見すること。

推定場所があったとしても、地権者との交渉に時間を要することなどに鑑み、先に川内教会敷地内に建て、列福記念の年とレオ七右衛門の殉教四百年を記念することにした。顕彰会では碑建立を機に教会内外の郷土史家など有識者の協力を得て、殉教場所の確定作業に移れるのではないかと、この結論に達した。

YET

「とんでもない会」と正直そう思った。会が組織されてから月日が経ったのに「会の目的は？」の質問が出る。そして「とりあえず集まれば…」程度で円満な解決。不思議▼これは一月十三日(日)のパッシヨンの会の今年の初会合。十数人の出席者が銘々に思いを語っていく。順番に、理路整然とというわけではない。勝手に口を挟む人もいれば、その意見に涙する者もいる。まさにバラバラと

新風

高校時代、「健全な精神は健全な身体に宿る」というモットーを聞かされ、大いにスポーツをして身体作りに励んだものである。スポーツは単に体作りだけではなく精神の鍛錬、仲間との協調性、敗北の悔しさや勝利の歓喜など、健全な精神を醸成する確かな手段である。しかし、大人になつて、身体の不自由な人

れを乗り越えるには精神(心)の支えが必要であることも事実である。ところで、信仰の視点で考える時、何が「健全な精神」であるのかも検討しなければなら

キリストのへりくだりに学ぶ — 精神と身体との関係について —

い。神への信仰を持たない多くの人は「健全な精神」よりも「健全な身体」の維持、あるいはその獲得に関心がある。健康ブームがそれを雄弁に物語っている。健康な身体さえあれば、人間は

信徒への手紙二章3、4節)と。精神(心)の健全さとは信仰の視点に立てば、「キリストは、神の身分でありながら、神と等しいものであることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になられました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。」(同上8節)このキリストのへりくだりに学ぶことである、と言えるでしょう。

(H・N)



教皇に土産を渡し歓談する郡山司教

門の人形をも愛でながら、鹿兒島のことには思いを馳せているようだった。また話の中で、鹿兒島教区に教皇から神学を学んだことのあるドイツ人宣教師がいることを伝えると、教皇は目を細め「そうですか」とうなづいていた。

お土産はこれ

ザビエルとレオ七右衛門人形

日本司教団の「使徒座訪問」で教皇ベネディクト十六世に個人謁見した郡山司教は教皇に聖フランシスコ・ザビエルと「薩摩の殉教者」レオ税所七右衛門の人形を贈呈した。これらの人形は紙粘土で作られた創作品で民芸品さつま郷土人形作家の岩野啓一さんの作。岩野さんは洗心こそ受けてはいないものの郡山司教の注文にこたえ、いわゆるザビエルグッズを作製してきた。教皇は人形を手に取り、頭をなでるようにして、注意深く見入っていた。

常者。こんな人たちが定期的に不思議な集まりをしていられるのだ▼「ふつう」と言われる人たちの会議なら、当然誰かが切れるような会議の進行。なのにここでは時間がゆっくり。上手にしゃべることのできない人が必死に口を開き、それを聞く人も懸命に分かるようにする。誰かが途中で口を挟むと話はそちらでも盛り上がる。いわば「変化に富んだ」変な会なのだ。皆の輪から離れて様子をうかがっていた者には、その不思議な集いをあの皆が母国語を聞いていたかのような出来事とだぶった。

この世界と自分に対する

神のはからいを知る

今年の十一月は教皇大使の公式訪問のため休会。一月は大口教会で開催されました。

テーマ：この世界と自分に対する神のはからいを知る

1 ※リーダーによる説明(十五〜三十分)

※参加者を温かく迎える
※主をお招きするための祈り

※今日の講座の流れを説明
※分かち合いのルールについて

ローザの考え方を朗読(ゆつくりと間をおいて二回読まれます)

『ローザは若い教師でした。彼女はかつて、夜のクラスの人々の勉強を手伝っていました。そこで彼女が知ったことは、人々が十分な知識がなく無知であるばかりに抑圧された状態のままにいてということでした。ローザは大きな夢を持っていました。彼女は成功し、絶えず前進することを望んでいました。』

ローザは教会に行こうとは思いませんでした。こんなことを言っていました。「教会に行つて何か良いことでもあるの? キリスト信者は天国のことしか話しません。この地上でわたしたちが苦しんでいるというのに。祈つたり、教会に行つたりして時間を無駄にした

くないの。人々に読み書きを教える方が聖書を読むよりもましよ」と

2 ※識字学級はアフリカで失った在日朝鮮人の方や生活苦で学校に行けない多くの貧しい人々のいる殆どの国に見られます。

彼女は人々の完全な解放を目指して力を注ぐ方が信仰を持つことより重要だと考えています。人は

北薩地区宣教奉仕者

(信徒使徒職)養成講座③

出水教会主任司祭 大松正弘

見えてはいるけれども見えないことが多くあります。人々の苦しみ、悲しみ、貧困、痛みも完全に共感することはできません。一時しらすぐに記憶の中から薄れていってしまします。

問いかけ(まず五分間それぞれ自分を振り返り、必要に応じてメモしてください)

(1) (救い)とは何だと考えていますか? 「完全な解放」「全人格的な解放」とはどのようなものだと思いますか。以下の問いを中心に考えてください。

①日々の生活の中で、あなた自身を盲目にしているものはありますか? 目が

に留まった。
18 『主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、主がわたしに油を注がれたからである。』

主がわたしを遣わされたのは捕らわれていた人に解放を

目に見えない人に視力の回復を告げ、

19 主の恵みの年を告げるためである。』

(16節〜19節を何度か繰り返して読みます)

この世界で、教会はどのような意味をもっていると思いますか?

※小グループに分かれての分かち合い。自分の生き方と照らし合わせて(各問いかけについて十分、全体では三十〜四十分)

※質問は一つずつ、分かち合いと報告をしながら進んでいきます。

ルカによる福音書四章16節〜19節を読んでみましょう。

『イエスはお育ちになったナザレに来て、いつものとおり安息日に会堂に入り、聖書を朗読しようとしてお立ちになった。』

預言者イザヤの巻物が渡され、お開きになると、次のように書いてある箇所が目

たしたちのごく身近にある自己中心や孤独という問題を克服するためにどんなことができるでしょうか?

司教執務室 便り

キリストの代弁者

「経済的な成功や技術の進歩だけでは人間の心を満たすことは出来ません。」

高校時代の三年五組の新年会、世話役の友人がはじめの挨拶をした。そして、コメントした。「実は、これはベネディクト十六世の言葉です。」「ウォーツ!」

「一斉に声があがった。『郡山が言うようなことだけでは、本人がそう言うように、誰も同じ感想を持ったに違いない。』

昨年十二月、パチカン訪問の最終日、日本司教団に対してなされた教皇のお話の一部が新聞に報道されたらしい。「確かにそうだ」と得心したので、切り抜くか何かして大事に保存していたのかもしれない。ともあれ、図らずも、未信者の友人が教皇の代弁者の役を果たしたという意

味では、確かに思いがけないデキゴトであった。そして思った。「信者はキリストの代弁者!」

普通、キリストの証人とは言っても、キリストの代弁者とは言わない。しかし、信者がキリストの代弁者だとすると、証人よりも具体的な響きがあり、何か責任重大との緊張感すら増す感じだ。弁護士さんのことを持ち出すまでもなく、代弁する人に求められるのは忠実さ。そして、代弁してもらう人の側に立ち、その人の益となることを第一としなければならぬ。こうなると、いよいよ、気が重くなってくるのだが。それでも、あえて「キリストの代弁者」という肩書きを自分につけてみるのは司祭や信徒にとつて刺激的でない

かもしれないと思う。マンネリ化といえれば言い過ぎかもしれないが、「キリストの証人」はあまりにも耳慣れた肩書きになってしまつて、それだけに受け流してしまふような感じもするからだ。

ところで、教会暦は降誕節から年間に変わり、六日にはもう灰の水曜日を迎えて四旬節に入る。回心の季節を迎えるにあたって、やっぱり大それた感じはするが、「キリストの代弁者」は、心機一転、信仰の歩みを強化する自主トレにはふさわしい肩書きかと思うのだが。イエス様も目を細めて応援してくださるに違いない。



+KABAYAN SEKSIYON+

"Ang Espiritu Santo, Tagapagsalin ng Kasulatan"

Sa Banal na Kasulatan, ang Diyos ay nagsasalita sa tao sa pamamaraang tao. Para sa tamang pagsalin ng Banal na kasulatan, ang mambabasa kailangan maging mapagpunyagi kung ano ang gustong ipahiwatig ng taong mayakda at kung ano ang gustong ipahayag sa atin ng Diyos sa kanilang mga salita. Para matuklasan ang intensiyon ng banal na nagsulat, ang mambabasa ay kailangan bigyan pansin ang kalagayan ng kanilang panahon at kultura, ang uri ng pampanitikan na gamit sa panahon na iyon, ang paraan ng pakiramdam, ang daloy ng pagsasalita at pagsasalaysay. "Para sa tunay na pangyayari na ang katotohanan ay pinapakitang ibang-iba at inihayag sa ibat-ibang tipo ng kasulatang kasaysayan, sa paraang panghuhula at makatang aklat at sa ibang pormang pampanitikang paghahayag.

Subalit dahil ang banal na kasulatan ay pinanubayan mayroon pang isa at walang maliit na importanteng paninindigan ng tamang pagsasalita, dahil kung wala ang banal na kasulatan itoy mananatiling isang patay na sulat. "Ang Banal na Kasulatan ay kailangan basahin at isalin sa liwanag ng parehong Espiritu na kung saan iyon ang isinulat."

Ang Pangalawang Konsilyo Batikano ay nagtalaga ng tatlong kriterya para sa pagsalin ng Banal na kasulatan sunod sa patnubay ng Espiritu:

- 1) Mahalagang pagpunyagi " sa nilalaman at pagkakaisa ng buong Banal na kasulatan"
- 2) Basahin ang Banal na Kasulatan na "nakapaloob sa buhay Tradisyon ng buong Simbahan o Iglesia.
- 3) Maging mapagpunyagi sa mga pagkakahawig ng pananampalataya. "Pagkakahawig ng Pananampalataya" ang ibig sabihin mayroon pasunod-sunod ng katotohanan ng pananampalataya sa bawat isa at nag nakapaloob sa buong plano ng kapahayagan.

Kaya mga Kababayan, huwag tayong magpadaya sa turo ng ibang tao tungkol sa katotohanan, subalit sundin at sumunod sa tunay na turo ng Simbahan Katoliko na nangaling mismo sa turo ng mga alagad ng Panginoon Jesukristo. Bigyan halaga ang mga itinuro sa atin para sa kaluwalhatian ng Diyos.

献堂記念日に聖母行列

今年献堂百周年を迎える瀬留教会

十二月八日(土)、無原罪の聖母の祭日に瀬留小教区(主任司祭 末吉卓也神父)では、聖母行列が行わ



れた。この日は瀬留教会の献堂記念日で、二〇〇八年には献堂百周年を迎える。この行列は、前々から準備

したものでなく、ザンビアから休暇で帰省し、安木屋場教会での黙想会を開いた後、瀬留に滞在していた久保芳一神父(コンベンツアル聖フランシスコ修道会)が、前日に呼びかけたもの。主任司祭にとつては青天の霹靂で、たった一日で準備できるのか心配したが、久保神父は「信じたとおりになるように」と、かつての瀬留小教区の主任司祭として、旧知の信者たちに強烈なリーダーシップを発揮した。豊一枚大の御輿(三つ、横断幕、等身大の聖母の切り絵、神輿一つを埋め尽くすほどのバラとその他の花々、手間のかかる紙の花飾り)、それらがわずか一日で準備された。近隣の小教区にも急いで呼びかけて参加者は七十人を超えた。出発は、午後三時。天候にも恵まれ、バラだけで敷き詰めた中央の御輿に聖母を乗せ、その前後を様々な花で飾った御輿が進み、信者たちはロザリオと聖歌をささげながら、瀬留集落を回り、人々のために聖母の祝福を

願った。集落の共同墓地は狭い坂道を少し登ったところにあるが、その坂を聖母の御輿が上り、瀬留教会献堂時の主任司祭だったブイジュ神父の墓に近づいたときが、この聖母行列のハイライトとなった。墓前でロ

一年が経過したパッションの会

一年が経過したパッションの会

一月十三日(日)午後、教区本部で障害者の自立を考える「パッションの会」



が開かれ、障害を持つ人やそれをサポートしようとする人など十五人ほどが集まった。会ではそれぞれが自分の思いを語り、分かち合うことで、生きる喜びを感じているようだった。指導司祭の頭島光神父は

「短信」

▼四條さんを終身助祭候補に認定



四條さん

主の公現の主日の一月六日(日)ザビエル教会でのミサで、終身助祭候補者の認定式があった。候補者の認定を受けたのは、四條淳也さん。東京在住の四條さんは喜界島に縁があり、瀧神父の要請にこたえて終身助祭への道を歩み始めた。近く喜界島へ移り住む予定。

▼郡山司教が四十二キロを完走！

昨年の「指宿菜の花マラソン」十キロの部を完走

この会について次のようにコメントしている。「会を作った。目的は最初からなかった。とにかく集まろう。そして互いに語り、聞こうだった。そこから何かが始まる。『目的を！』という声もあった。『何をやるのか分からないでは変だから』と。でも私は拒否した。目的を作ってしまうとそのための会となくなる。縛られた会にはしたくなかった。長続きさせたかった。そして一年が経った。今、文句を言う人はいない。それでも、皆集まってくる。今から思えばこれでよかった。みんなの方からその答が出てきたから」



した郡山司教は、今年の大分マラソン(四月十三日)ではフルマラソン(四二・一九五キロ)に挑戦、五時間四十三分五十六秒で見事走りきった。【写真は山川付近での司教】

▼キリスト教一致祈禱集会

今年の一一致祈禱集会は、一月二十日(日)日本福音ルーテル鹿児島教会で開かれ、カトリック側からも三十人ほどが参加、プロテスタントの兄弟たちと祈り交流した。

2月

今月の暦

- 2日(土) 主の奉獻
- 3日(日) 年間第四主日
- 4日(月) ポツファイ神父命日(一九八八年)
- 5日(火) 日本二十六聖人殉教者
- 6日(水) 水灰の水曜日(大斎・小斎) 四旬節愛の献金「四旬節中」
- 四旬節愛の献金
- 教皇は毎年、四旬節に向けてメッセージを発表し、キリストを信じるすべての人が四旬節の精神をよく理解して、回心と愛のわざに励むよう呼びかけています。この呼びかけにこたえて日本のカトリック教会は、虐げられ、差別され、見捨てられ、いのちの危険にさらされている人たちとの共感を大切にしよう一人ひとりに訴えるとともに、四旬節中の「愛の献金」を奨励しています。
- この「愛の献金」は、カリタスジャパンを通して海外諸国と日本各地に送られ、難民や孤児、そして、貧困、失業、飢餓などに苦しむ多くの人々のいのちを守るために、また彼らの自立を助けるために使われます。
- 10日(日) 四旬節第一主日
- 11日(月) 世界病者の日
- 教皇ヨハネ・パウロ二世は、一九八四年二月十一日(ルルドの聖母の記念日)に使徒的書簡『サルヴィフィチ・ドローリス』苦しみのキリスト教的意味』を発表し、翌年二月十一日には教皇庁医療使徒職評議会を開設しました。そして一九九三年からこの日は「世界病者の日」と定められ、毎年教皇メッセージが発表されています。
- 病者がふさわしい援助を受けられるように、また苦しんでいる人が自らの苦しみの意味を受け止めていくための必要な助けを得られるように、カトリックの医療関係者だけでなく、広く社会一般に訴えていかなければなりません。医療使徒職組織の設立、ボランティア活動の支援、医療関係者の倫理的養成的養成、病者や苦しんでいる人への宗教的な助けなども重要な課題です。
- 13日(水) ハンマ神父霊名(ヨルダン)
- 14日(木) 出口市太郎神父命日(一九五八年)
- 17日(日) 四旬節第二主日
- 22日(金) 聖ペトロの使徒座
- 24日(日) 四旬節第三主日
- 27日(水) 東條一浩神父命日(二〇〇一年)

門田 明氏の鹿児島とキリスト教⑩

アルメイダ神父

これまで、フランシスコ・ザビエルの来日と離日、他界までを話してきた。これから、ザビエル以後の宣教師渡来とその働きに話を進めたい。

なお、ザビエルの事跡については、河野純徳神父の著書『聖フランシスコ・ザビエル全書簡』(平凡社・一九八五)と『聖フランシスコ・ザビエル全生涯』(平凡社・一九八八)に、とくに教えられるところが多かった。感謝の気持ちを表明し、あわせて紹介しておきたい。

さて、ザビエル以後の来日宣教

師については、池田敏雄『人物中心の日本カトリック史』(サンパウロ・一九八八)に教えられるところが多かった。というより、ほとんど知識をこの本から授かったというのが事実である。主題に関係ある人々の伝記をつないで、特定分野の歴史を記述する方法は、新鮮で勉強が楽しかった。

勿論この本でも、日本のキリスト教の発足はザビエル(一五〇六〜一五五二)から始まる。次にルイス・デ・アルメイダ神父(一五二五〜一五八三)の名が挙げられる。私も今ここで、アルメイダを取り上げ、学んでゆきたい。

アルメイダは一五二五年ポルトガルのリスボンに生まれた。長ずるに及んで外科医を志し、一五四六年医

師の資格を取得し、二年後貿易商兼医師としてインドのゴアに渡った。その後さらに日本に向かい、一五五二年種子島に上陸した。それから平戸、山口を経て大分に移り貿易に従事していたが、イエズス会の宣教師に接するうちに、宣教師の仕事に強く引かれるようになった。こうしてアルメイダは自分の財産の一部で孤児院を建て、残りをイエズス会に布教費として寄付し、孤児や病人の世話を献身的に行っていたが、やがて自らもイエズス会に入り修道士となった。そして西洋医学の知識を周囲の人々のために存分に役立てることになった。(未完)

(玉里教会信徒・ザビエル上陸顕彰会会長)

小神学生からの手紙

神学校へのお誘い

高一 園田克也
神学校はこんな場所！毎日のミサ、ロザリオがあり、聖歌の練習は週に一回あります。とても充実した生活を送ることが出来ます。編入もOKです。

中三 田代竜之
神学校の先輩は、一人ひとりの「きずな」がとても強く、できるだけよい方に導こうとする人ばかりなので、とても心強く、頼れる人ばかりです。ぜひ来て下さい。

中一 石堂 陸
神学校はスポーツが楽しい。神学生はいつも休憩の時にはバスケットやサッカーをしたりしています。またたまにはグラウンドに行つて、みんなでソフトボールなどを楽しんでいます。とても楽しいので、ぜひ来て下さい。

中一 大田 聖
神学校の行事は、月に一度の「誕生会」や「バス旅行」「クリスマス会」などなど、すべて楽しいのでぜひ来て下さい。

文芸

俳句 (思川俳句会作品)

市来房枝選

国分政 ノブ子
金祝の司祭を愛でる梅の花
(評) 五十年健やかに司祭職を務めてこられた神父様を、地上のもの全てが称えている様を「梅の花」に凝縮して詠まれた一句

出水 遠竹 睦郎
マリア像仰ぎて祈る春の朝
(評) 元旦を迎え先ずマリアさまに祈られた作者。「春の朝」が爽やか。

純心学園 山頭 信子
吾が恩師追悼ミサに笑みかけり

出水 沖 弘子
恙なく顔の揃いて屠蘇を汲む

純心学園 川上 和
初日受けきらりと光る朝の露

鹿児島 春山マリ子
はらからの生き抜く力与えませ

阿久根 中津濱フサエ
眠りより目覚めて祈る永遠の幸

鹿児島 龍門司真人
十字架の清き絵手紙年賀かな

嘉例川駅もちらちら雪明り

短歌 (思川短歌会作品)

市来房枝選

純心学園 川上 和
恩人を癒したまへとロザリオを繰りて祈りぬ明けゆく空に

(評) 下の句の「明けゆく空に」にひたむきな気持ちが見え表出された。

鹿児島 前田 儀子
細胞に食ひ込む癌を思ひつつ眼れぬ夜の雨の激しき

(評) 現実をしっかりと捉えた重い歌。結句の「雨の激しき」が一層不安

長崎への道ーキリシタン墓地に思うー

鹿児島純心女子学園校長

長谷崎富子

「長崎への道」とは二十六聖人が歩かれた京都から長崎までの殉教への道を指す言葉である。

結城神父さまの本の題名や殉教者の道をたどる人々のグループ名にもなっている。二十六聖人殉教の地・



鹿児島市池之上町にあるキリシタン墓地

長崎に住んでいると、新年になると二月五日に向けての動きが感じられる。長崎への道の方は、それぞれ京都から長崎への歩みを何年もかけて挑戦しておられたり、徹夜巡礼をする人、時津の船着き場から西

坂公園周辺の清掃奉仕に出かける。そして当日、長崎純心から歩き始めると、南山生や小神学校の生徒、信者さんやシスター方と、西坂に近づくにつれ大きな人の流れとなる。歩きながら時代は違っても殉教者の道に歩みを重ねることに喜びを感じる。鹿児島に転動した頃、この動きがなく寂しく感じていた。

パンフレットの活用について

カリタスジャパン担当 久保俊弘

カリタスジャパン小冊子編集委員として決まったことを報告し、ご協力をお願いいたします。

昨年三月から毎月会議があり、今までの「叫ぶ」「ひびき」という小冊子では悲惨な話があるだけで、救いが無い、とのことで今年からは四旬節の六つの日曜日に一つずつ六つの話を出し、その一つひとつに英神父さまに三つの振り返る質問とその主日の福音とどうつながっているかを味わい直す霊的な文を書いていたが、苦しい人々と手をつないで、その試練を乗り越えようと小冊子の名前を「つなぐ」にしました。

そこで全国の神父さま方と信者の皆さまが六回のお話を皆で分かち合い、素晴らしい四旬節の黙想をしていただければ、すべての

私は浦上の坂本出身である。浦上四番崩れの時、この地域の人々が鹿児島島の福昌寺に三百七十五人お預けになっていた。その方々の旅の話の記録によると、もともと農民なのでじつとして耐えられず「何か仕事をしたい」と申し出、仕事をいただいたそうである。まじめに働いて重宝もされたと書かれている。藁をもらい草履を作るとキリシタン草履として売られたようである。そしてその中の仕事に唐湊の桑畑で仕事をしたという記録があった。当時のことなので

歩いて唐湊まで出かけたのだとすれば、逆の道歩くの意味がある。ここで三年の間に亡くなった五十三人の方が殉教者と考えると、その百三十五年程前の殉教者の道に歩みを重ねることが出来る。

このような考えからセシリア会の生徒や郷土史研究部の生徒とともに純心からザビエル教会経由福昌寺まで毎年歩くようになった。そして今回再び転動により鹿児島に戻つてからもシスターを誘いながら殉教者の歩みをたどっている。

やり方は色々考えられますが、(日)日曜の「ミサ」の後に十五分から三十分(できれば一時間)残っていた(月)一人が大きい声で読む(途中で交代してもよい)(火)前列の人が後ろ向きに座り、十人ぐらいを目処に分かち合いをする。(十人としたのはいずれも人数が多すぎるとしゃべりにくくなるため)これには年長者がそのグループの班長になって下さればよいと思います。

各教会の事情によって、このような方式でなくても、たとえばパネルディスプレイ(数人が話し、他の人は聞く)にするとか、班ごとで集まるとか、その教会に適した方法で、要するに元気の出る教会にしたいだけばよいと思えます。それではよい四旬節を送り、輝かしい復活を皆さまがお迎えになられますよう、心からお祈り申し上げます。

因みに第二週の話は、鹿児島市出身で今は福岡県にお住まいのCLC九州代表の追立季治さんの立ち上げたグループホームのことで、よろしく願います。(教区助祭・谷山教会)

出口市太郎神父様帰天五十年

この二月十四日(木)で、知牧区時代に鹿児島教区長を務められた出口神父様が帰天されて五十年になります。お祈り下されば幸いです。

ザビエル教会信徒 武川真澄

スピリチュアルケア研修会

テーマ：人間関係とコミュニケーション① (全3回)

講師：W・キップス神父 日時：2月24日(日)9:30~16:30
場所：宝山ホール第4会議室 受講料：5000円
申込み：TEL 099-248-2412 松村恵理 (携帯)090-9499-0198

※事前の申込みをお願いします。



「へえ、日本の教会は今こうなんだ・・・」
ザビエル

カトリック新聞は、日本のカトリック教会唯一の週刊全国紙です。全国、海外の読者様のお手元へ毎週運送いたします。また、全国のサンパウロ・女子パウロ会書店でも販売しております。

〒135-8595 東京都江東区東横 2-10-10 日本カトリック会館5階 カトリック新聞社
TEL 03-5632-4432 FAX 03-5632-7000 Email kodoku@cwjpn.com

カトリック新聞

1部本体価格150円(税・送料別)
購読料金(前納・税・送料込)
半年4740円・1年9480円

見本紙贈呈いたします